性作曲家たち

出演者

東川恭子（メゾソプラノ）HIGASHIKAWA Kyoko
国立音楽大学声楽科卒業。ブルガリア国立ソフィア音楽院特別研究科修了。その後ミラノにて研鑽を積む。ミラノを拠点にヘンデル「メサイア」、ペルゴレージ「スターバト・マーテル」のアルトソロで演奏活動を開始。帰国後は、愛知県芸術劇場開館記念オペラ「ピーター・グライムズ」のアーンティをはじめ「カルメン」タイトル・ロール（愛知県芸術劇場、四日市市文化会館、サラマンカホール）、「魔笛」第三の侍女、パパゲーナ、「アマールと夜の訪問者」母親等、他多くの役をこなす。オーケストラ付き合唱曲のソリストとしても多くの作品のアルトソロを務めている。
名古屋二期会会員、三重新音楽家協会会員。

松下寛子（ピアノ）MATSUSHITA Hiroko
三重県四日市市出身。名古屋市立菊里高校音楽科卒業、愛知県立芸術大学音楽学部卒業、同大学院を首席修了。99 年に国際ロータリー財団奨学生として渡独。2002 年ドイツ国立ケルン音楽大学を最優秀首席で卒業。これまでにケルン、ボン（エンデニヒ・シューマン音楽祭）、名古屋、四日市、磐田、吹田、宝塚、鈴鹿、大和郡山にてソロリサイタルを開催。2006 年のボン・シュティフツ教会合唱団四日市公演、2017 年奈良フィルハーモニー管弦楽団定期演奏会やセントラル愛知交響楽団四日市公演等にてオーケストラと共演。その他にも器楽・歌曲のリサイタル伴奏や室内楽演奏会にも多数出演。現在、名古屋音楽大学、奈良県立高円高校音楽科各非常勤講師。

高取紀衣（ピアノ）TAKATORI Norie
愛知県立芸術大学音楽学部器楽科ピアノ専攻を経て同大学院音楽研究科修了。池田寿美子、佐藤恵子、宇都宮淑子、山崎冬樹の各氏に師事。各種ジョイントリサイタル、名フィルメンバーとの室内楽やオーケストラとピアノ協奏曲を共演。その他声楽、器楽の伴奏等で活躍中。
フォンテ・クラシカ、四日市音楽協会会員。四日市市在住。

金森千晶（ピアノ）KANAMORI Chiaki
東京音楽大学ピアノ演奏家コース卒業。ザルツブルクを中心に研鑽を積む。読売中部新人演奏会、みえ新進音楽家演奏会に出演。自身のリサイタルのほか、全国のオーケストラとの共演も積極的に行っている。ソリストとしての活動以外には、長年、四日市市民オペラ、名古屋二期会、関西歌劇団、大阪音楽大学オペラハウスなどで、ピアニスト、コレペティトアとして数多くの公演に携わり歌手や演出家、指揮者から多大なる信頼を得ている。「来場された全ての方に≪心から≫楽しんで頂くこと」を活動の枢要とし、既存のスタイルにとらわれない≪自分にしかできない音楽≫を常に探求している。

高橋朋子（ピアノ）TAKAHASHI Tomoko
桐朋女子高等学校音楽科を経て桐朋学園大学音楽学部卒業。同大研究科修了。ブリュッセル王立音楽院、パリ市国立高等音楽院マスターコースを修了。ベッリーニ国際音楽コンクールピアノ部門にて入賞、フィナーレ・リグレ国際音楽コンクールピアノ部門にて第 3 位。サレルノ国際ピアノコンクールにて第 2 位。これまでジャン・フルネ指揮、桐朋学園オーケストラをはじめ、モンペリエ交響楽団、シチリア交響楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団、セントラル愛知交響楽団、四日市交響楽団と共演。
現在、名古屋音楽大学非常勤講師

前川 晶（ピアノ）MAEKAWA Aki
名古屋市立菊里高等学校音楽科卒業。東京藝術大学音楽学部器楽科卒業。ドレスデン国立音楽大学ディプロム課程に入学、その後同大学大学院に進学し、国家演奏家資格を得て修了。在独中、大学の推薦によりシューマン、ベートーヴェン連続演奏会などに多数出演。これまでにドレスデン・シンフォニエッタ、三重大学管弦楽団、セントラル愛知交響楽団とピアノ協奏曲を共演。宗次ランチタイムコンサート、パラミタコンサートに出演。2011、2015年四日市にてソロ・リサイタルを開催。これまでに服部浩美、藤井博子、播本枝未子、渡辺健二、Gunther Angerの各氏に師事。現在、名古屋芸術大学芸術学部芸術学科音楽領域非常勤講師。日本ピアノ教育連盟、日本ショパン協会各会員。

作曲家について

The Commentary

バルバラ・ストゥロッツィ（Barbara Strozzi, 1619 年 8 月 6 日受洗 - 1677 年 11 月 11 日）はイタリア初期バロック音楽の作曲家・声楽家。台本作家ジュリオ・ストゥロッツィの養子であったが、実子の可能性が高い。父ジュリオの音楽討論サークルに歌手や会員として参加し、またフランチェスコ・カヴァッリに作曲を師事。父親の死後に作曲と作品の出版を精力的に続け、出版譜の献辞から、神聖ローマ帝国皇帝フェルディナント 2 世や、リューネブルク公国后妃ゾフィーが初期のパトロンであったと察せられる。作品の大半はソプラノと通奏低音のために作曲されており、これらはストゥロッツィ自身が歌うために作曲されたものと推測される。ストゥロッツィの作風は、モンテヴェルディの作品によって具体化された「第二の技法」に固く根を下ろしているが、声それ自体の表現力を基礎として、より叙情性が強調されている。

マリアンナ・フォン・マルティネス（Marianna von Martines, 1744 年 5 月 4 日 - 1812 年 12 月 13 日）は、オーストリアの歌手、ピアニストであり作曲家。祖父の代にナポリにスペインから移住し、父が教皇の執事長としてウィーン宮廷へ派遣され定住し、マリアンナの兄弟の代に騎士に叙任され " フォン " を名乗った。父は、若い時より、後の偉大なオペラ台本作家メタスタージオと親友で、メタスタージオがウィーンの宮廷詩人として招聘された後の約 50 年間、その死までマルティネス家と同じ建物に住み、マリアンナの少女期の教育に大きな影響を与えた。同じく高名なイタリア人声楽教師ニコラ・ポルポーラと若きハイドンも居住し、彼女の音楽家庭教師として教育にあたった。また、作曲をヨハン・アドルフ・ハッセと宮廷作曲家ジュゼッペ・ボンノに師事にした。成長したマリアンナは、著名な自らのサロンにおいて見事な歌唱や鍵盤楽器の演奏、また作曲を披露し生涯に亘り注目された。W.A. モーツァルトも親交を持ち、彼女と演奏するために、2 台のピアノのためのソナタを作曲している。

マリア・シマノフスカ（Maria Szymanowska, 1789 年 12 月 14 日 - 1831 年 7 月 25 日）は、ポーランドのピアニスト・作曲家。1820 年代に、ヨーロッパで精力的な演奏活動を行なった 19 世紀のポーランド人ヴィルトゥオーゾの先駆者であった。その後はサンクトペテルブルクに永住し、ロシア宮廷のために演奏活動や作曲活動、音楽教育に携わるかたわら、著名人が集う文芸サロンを開いた。ピアノの演奏会用練習曲や夜想曲を作曲した最初のポーランド人でもあり、彼女の「演奏する作曲家」としての活動は、ショパンにはっきりと影響を与え、19 世紀ヨーロッパのヴィルトゥオーゾ兼作曲家の幅広い流行のさきがけにもなっている。

ルイーズ・ファランク（Louise Farrenc, 1804 年 3 月 31 日 - 1875 年 9 月 15 日）はフランスの作曲家、ピアニスト、教育者、音楽学者。パリ音楽院で女性として初めて教授職に就任し、管絃楽曲に対してフランス学士院より賞を 2 回授与された。旧姓はデュモンといい、フランドル系美術家の家庭に生まれる。幼少からピアノを学び、15 歳からパリ音楽院で作曲と音楽理論、楽器法を学ぶ。1821 年に楽譜出版業のアリスティド・ファランクと結婚。1826 年に一人娘のヴィクトリーヌを出産、彼女も母親同様に職業ピアニストの道を歩んだ。最初に成功した出版作品は《ロシアの歌による変奏曲 Air russe varié》作品 17 で、ロベルト・シューマンに絶賛され、その後も成功を重ね交響曲や室内楽曲により楽壇で名を揚げた。1842 年にパリ音楽院ピアノ科の教授に就任。1849 年に《交響曲第 3 番》作品 36 がパリ音楽院管弦楽団によって上演され最大の成功を収めた。翌年、《九重奏曲》作品 38 がヨーゼフ・ヨアヒムの出演を得て成功を収めた。1859 年に娘ヴィクトリーヌが結核のために夭折する。1861 年より夫とピアノ曲集『ピアニストの宝庫 Le Trésor des Pianistes』を出版。これは 16 世紀から 19 世紀半ばまでの鍵盤楽曲の撰集であり、全部で 23 巻が出版され、曲ごとに、音楽史や音楽学にまつわるデータや評伝が付されている。夫が 1865 年に世を去ると、ファランクが独りでこの事業を完成させた。娘と夫に先立たれてから、ほとんど作曲しなくなった。1872 年までパリ音楽院の教壇に立ち、1875 年に死去。ファランクの作品は作曲者の存命中に広く流布し、夫アリスティドの楽譜出版社によって、51 曲の有名な作品のうち約 40 曲が出版された。未出版の管絃楽曲も国際的に評価され演奏された。

ファニー・メンデルスゾーン＝ヘンゼル（Fanny Mendelssohn-Hensel, 1805 年 11 月 14 日 - 1847 年 5 月 14 日）は、ドイツのピアニスト・作曲家、アマチュアの指揮者。19 世紀前半において、フランスのルイーズ・ファランクと並んで女性作曲家のパイオニアとなったことにより、女性作曲家およびジェンダー研究の対象として再認識されている。作曲家フェリックス・メンデルスゾーンの姉としてよく知られている存在であるが、近年彼女自身の作曲家・ピアニストとしての業績が見直され再評価されつつある。ファニーは、個別に数えると 600 曲近い作品を遺したと言われている。その全貌が解明されたとはまだ言えないが、楽譜の出版や演奏・録音によって、作品の一部は身近になりつつある。作品には、ピアノ曲と声楽曲が莫大な作品数の中心を占めている。現在とりわけ有名なピアノ三重奏曲は、死後に弟フェリックスの校訂により出版された。彼女の多くの歌曲は、当初フェリックスの名の下、作品 8 と作品 9 として出版された。その中の 1 曲である「イタリア」はヴィクトリア女王の愛唱歌となり、フェリックスは女王に謁見した際、「本当は姉の作品なのです」と告白したとのエピソードが伝えられている。

クララ・ヴィーク＝シューマン（Clara Josephine Wieck-Schumann, 1819 年 9 月 13 日 - 1896 年 5 月 20 日）は、ドイツのピアニスト、作曲家。ピアノ教師フリードリヒ・ヴィーク の次女として生まれる。19 世紀に活躍したピアニストであり、作曲家ロベルト・シューマンの妻として広く知られている。プロデビューは 1828 年、9 歳の時、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団の演奏会で、モーツァルト・ピアノ協奏曲を演奏し、現在のドイツ全域に天才少女としてその名を知られるようになり、以後、19 世紀において最も高名なピアニストとなった。作曲家としても幼くして才能を発揮していた。しかし、当時は女性というだけで曲を正当に評価してもらえなかったが、クララの演奏を聴いたショパンは「僕の練習曲集を弾ける唯一のドイツ人女性」と絶賛し、その演奏のことをショパンから聞いたリストは作品への絶賛の手紙を音楽誌に投稿し、クララの歌曲 3 曲をピアノ独奏曲に編曲した。父親にピアノを師事し始めたロベルト・シューマンと